

輸出事業計画

※申請者名：株式会社播磨園製茶、品目：有機茶・抹茶

1. 輸出における現状と課題

【現状】

●当社が輸出に取り組んだきっかけは、平成19年、イタリア在住の商社出身者の方から、弊社の有機茶生産製造について問い合わせがありイタリア向けに輸出を行う様になりました。

●平成25年、アメリカ向けに輸出を行っている商社と取引を開始。当初は低価格帯加工用抹茶から販売を行っていましたが、近年「日本産抹茶＝高品質」の認知度が高まり、さらに健康志向とオーガニック志向による本来の高価格帯飲用抹茶需要が増加。当社の売上も需要と共に増加傾向が続いております。

◎輸出実績

・北米：平成25年 1,000,000円 → 令和3年 260,000,000円
 ・EU：平成20年 100,000円 → 令和3年 40,000,000円

【課題】

●施設・生産能力

自社工場の抹茶製造能力は24kg/日（24h稼働）。
 目標とする生産量（約95t/年間）を達成するためには、量産設備が必要不可欠となっている。
 また、当社工場は老朽化が進んでおり、増産するために必要な大型設備は建物の構造上不可能である。
 また大型車が進入する道路幅も確保できず、新工場の建設は必須である。

●品質基準

当社取引先からは、更なる衛生品質の向上を求められている。
 当社は有機栽培茶であるため、金属検出機だけでは除去することのできない害虫、その他生物的ハザードを除去するためにもFSSC22000及びJFS-C規格取得し、衛生管理を徹底した仕組み作りが必要となっている。



有機茶



有機抹茶（小売用）



有機抹茶（業務用）

2. 輸出事業計画の取組内容

●施設・生産能力

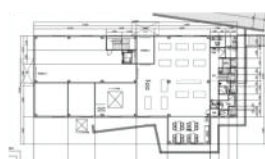
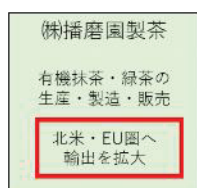
京都府宇治市原町大字奥山田に、総床面積770.56㎡の2階建て新工場を建設する。
 新工場には、生産能力30kg/hのボールミル粉碎装置を導入する。

●品質基準

令和4年9月頃からFSSC/JFS-C規格に適合したハード面・ソフト面を考慮した新工場建設に取り組む。
 FSSCの追加要求事項（TS2202-1:2009）では、FIFOやFEFOの在庫管理、車両、輸送車の管理、食品防御、バイオビランズ及びバイオテロリズムなども要求されており、HACCPによる危害要因だけではなく、様々なハザードからの防御、品質向上、社員教育も含めた管理システムを構築し、海外からのお客様にも「見える工場」へと仕上げていきたい。

<JFS-Cなど対応施設整備>

- ・衛生体制の強化 新工場建設・衛生設備導入により、衛生管理体制を強化（JFS-C認証を令和5年3月取得予定）
- ・輸出拡大 有機抹茶の北米・EU圏向け輸出が拡大。令和9年度末の輸出額は665百万円。



新工場



量産粉碎機

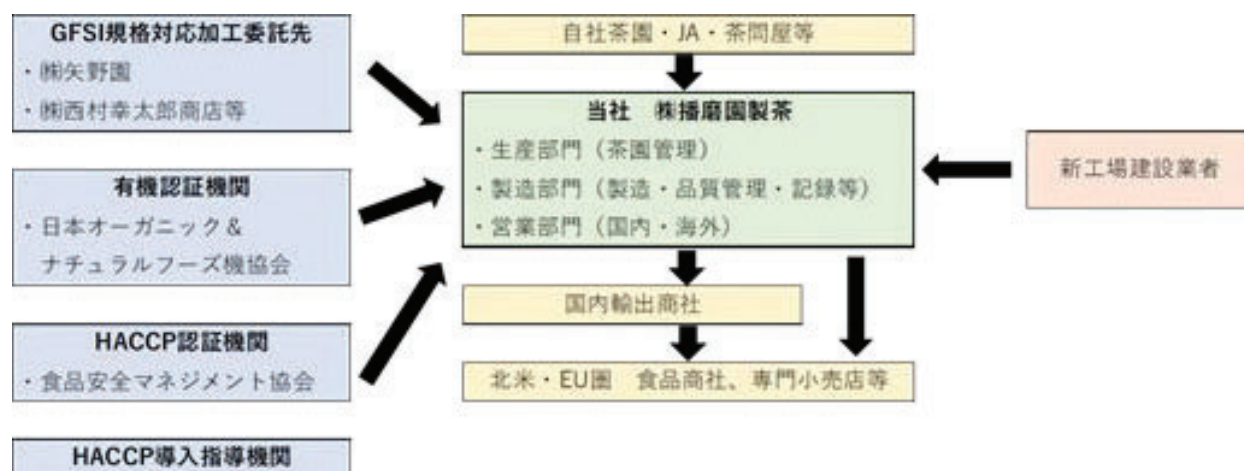


X線装置

海外市場
（北米・EU圏）

北米・EU圏向け輸出の拡大

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

JFS-C規格対応の新工場の稼働に伴い、自社における有機抹茶の生産量は従来50 t から5年後には95 t へ大幅増加する事から、海外企業からの機会損失売上高への対応及び、新規取引先の開拓により年間365百万円の売上増加を見込んでいます。また、当社は積極的に海外への販路開拓事業として展示会出展及び、英語版ホームページの運営を行っており、海外新規取引先の開拓による売上高増加（令和6年度＋120百万増）も併せて見込まれます。

		現状 (令和3年度)	目標年 (令和6年度)
京都府 宇治田原町	輸出額(円)	300,000,000	420,640,000
	輸出量 (t)	50	60
	輸出先国	アメリカ・カナダ・EU圏（イタリア）・イギリス他	アメリカ・カナダ・EU圏（イタリア・ベルギー・エストニア・オランダ）・イギリス他
	取扱量 (t)	100	130